

令和8年7月実施(2026)

学校給食に関する保護者アンケート

結果報告書

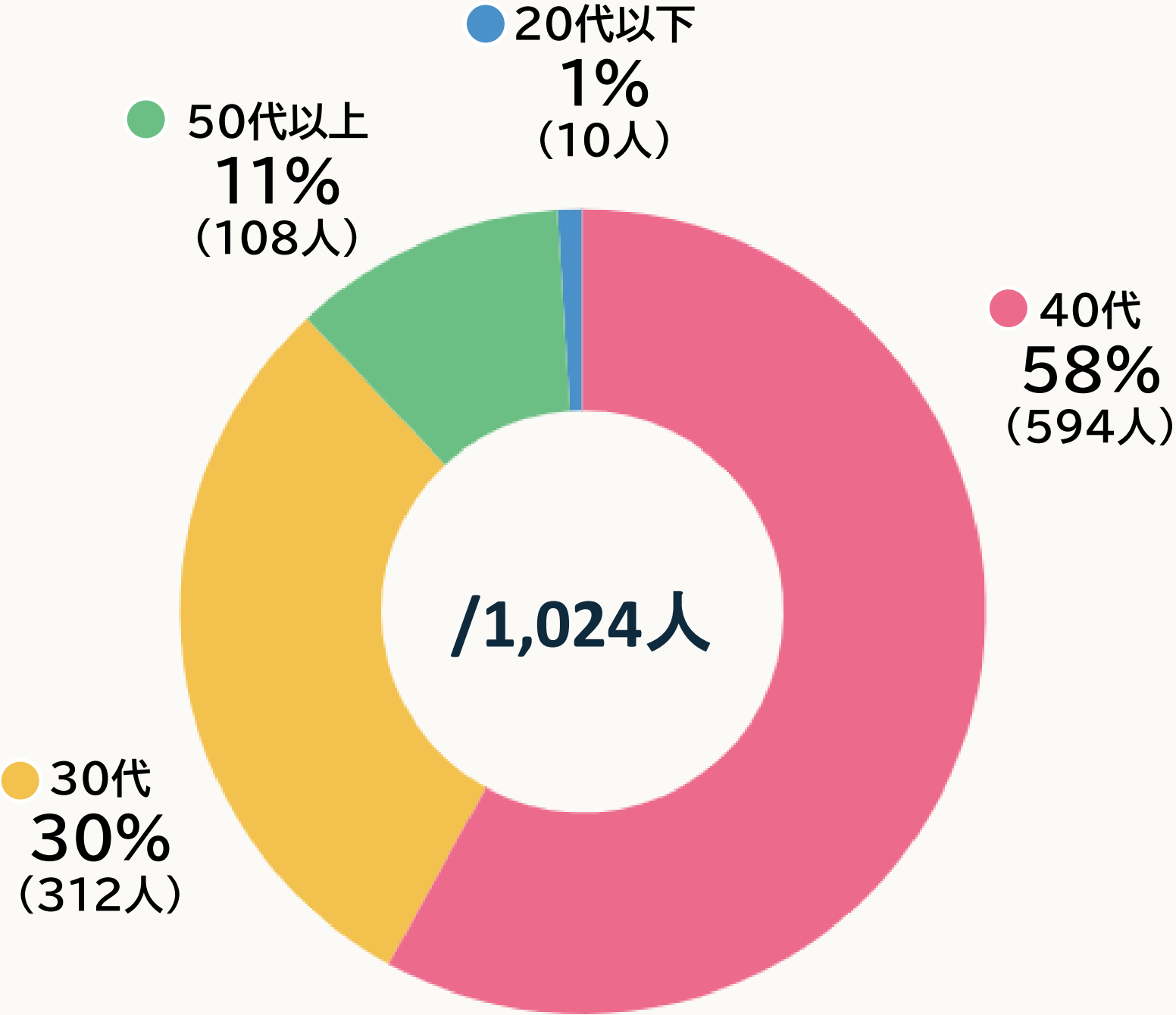


四国中央市教育委員会 教育総務課

1. 調査対象 : 市内小中学校の保護者
2. 配布人数 : 4,291世帯(小学校2,491世帯、中学校1,800世帯)
(参考) 児童生徒数: 5,369人(小学校3,413人、中学校1,956人)
3. 実施時期 : 令和8年7月1日～7月31日(回答締切)
4. 実施方法 : 保護者配布用ちらしから二次元コードを読み取り、
無記名回答
5. 回答数 : 1,024 件
6. 回答率 : 約24% (1,024件/4,291世帯)
7. 調査目的 : 給食費無償化の評価や、無償化に対する意向などを把握するため

■ 回答者年代

問1. 回答される方の年代を教えてください。

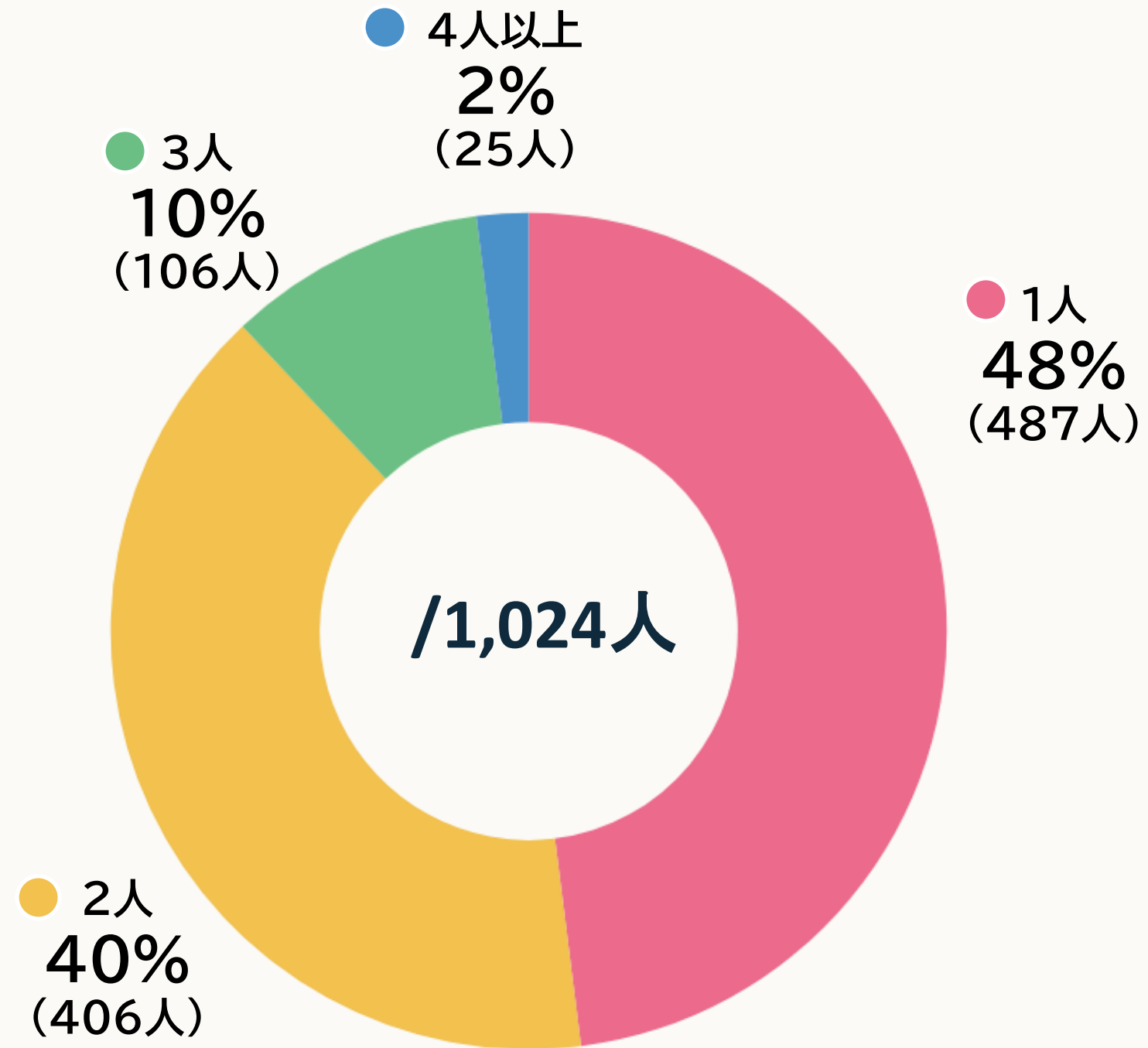


- ・ 子育て当事者である40代・30代が**全体の約88%**
- ・ 50代以上は11%、20代以下は1%と少数。
- ・ 子育て当事者の意識の高い層からの回答が中心となっている。

● 20代以下 ● 30代 ● 40代 ● 50代以上

■ 子どもの人数

問2. 現在、四国中央市内の小中学校に在籍しているお子さまは何名ですか。



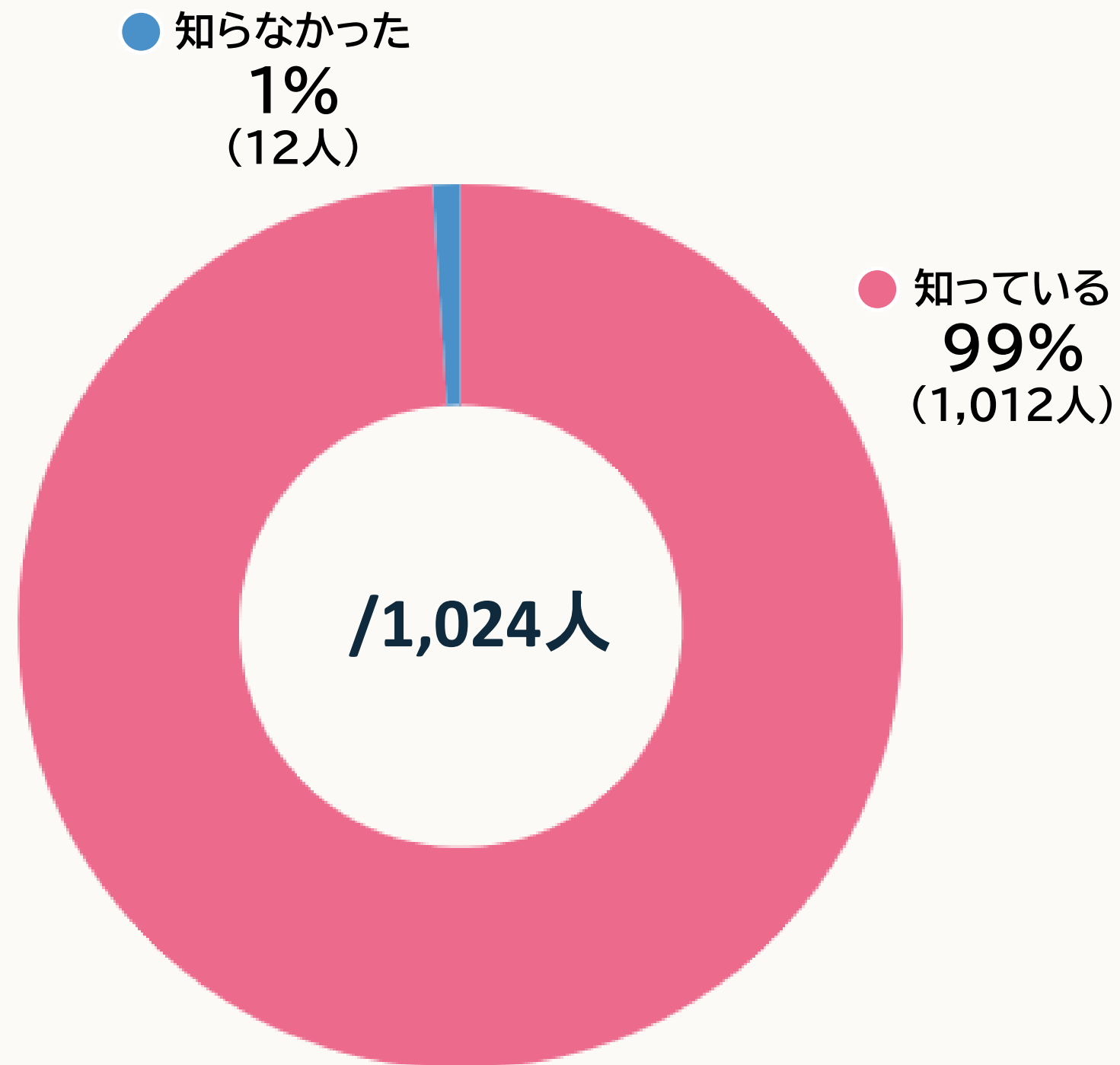
・ 2人以上の多子世帯が**約52%**

・ 2人40%、3人10%、4人以上2%を合わせると52%であり、複数の子どもを育てる家庭からの回答比率が高く、家計への給食費の影響が大きい層の回答が中心。

● 1人 ● 2人 ● 3人 ● 4人以上

■ 給食費無償化の認知度

問3. 四国中央市の学校給食費が無償になっていることを知っていましたか。



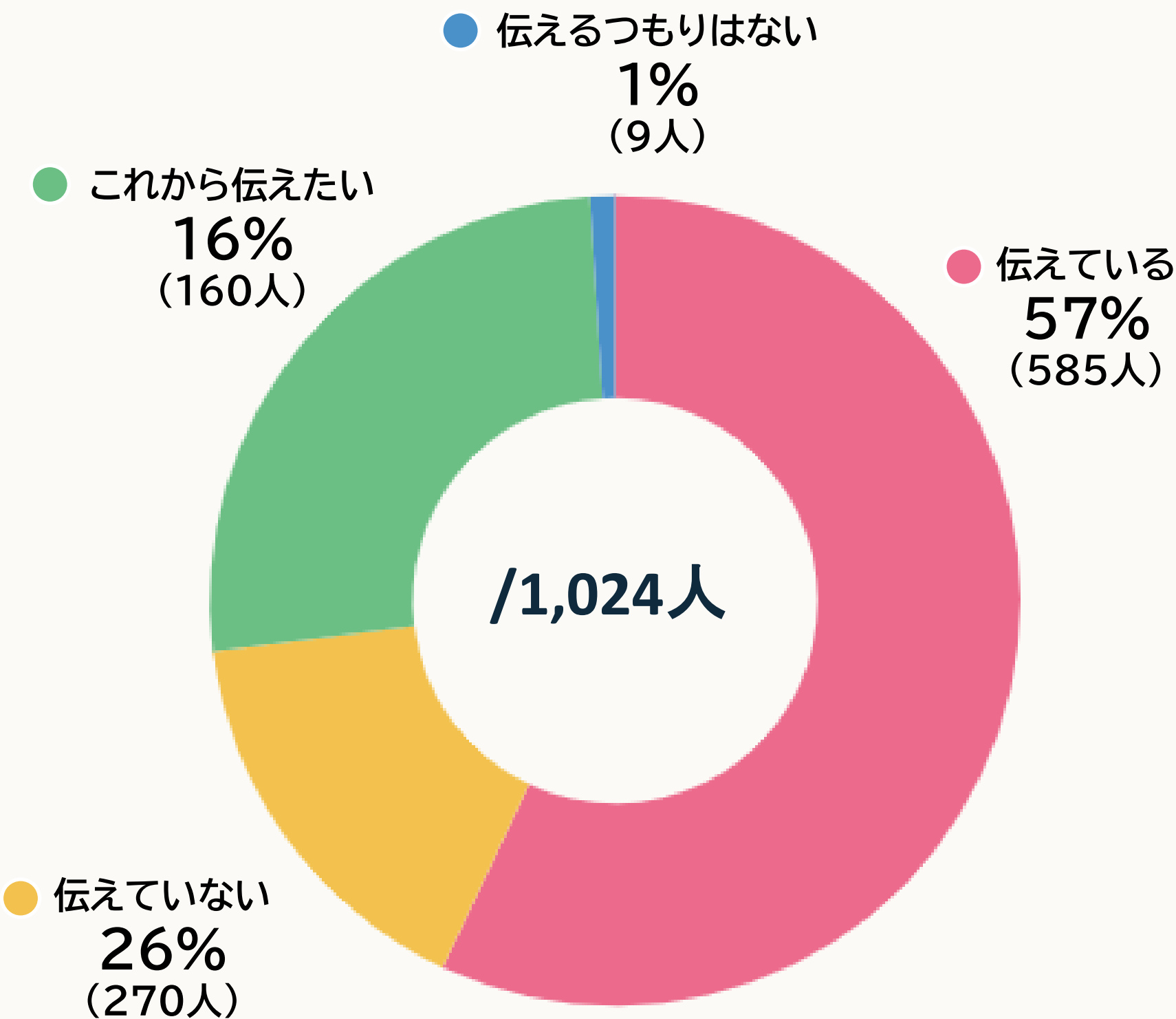
・ 無償化の制度は**認知度99%**と、
ほぼすべての保護者に浸透。

・ 制度の存在は広く行き渡っている一方、
1%の未認知層への継続的な情報提供が
今後の課題である。

● 知っている ● 知らなかった

■ 子どもへの伝達

問4. 給食費が無償化されていることをお子さんに伝えていますか。



・「伝えている」+「これから伝えたい」で
家庭内の共有は約73%

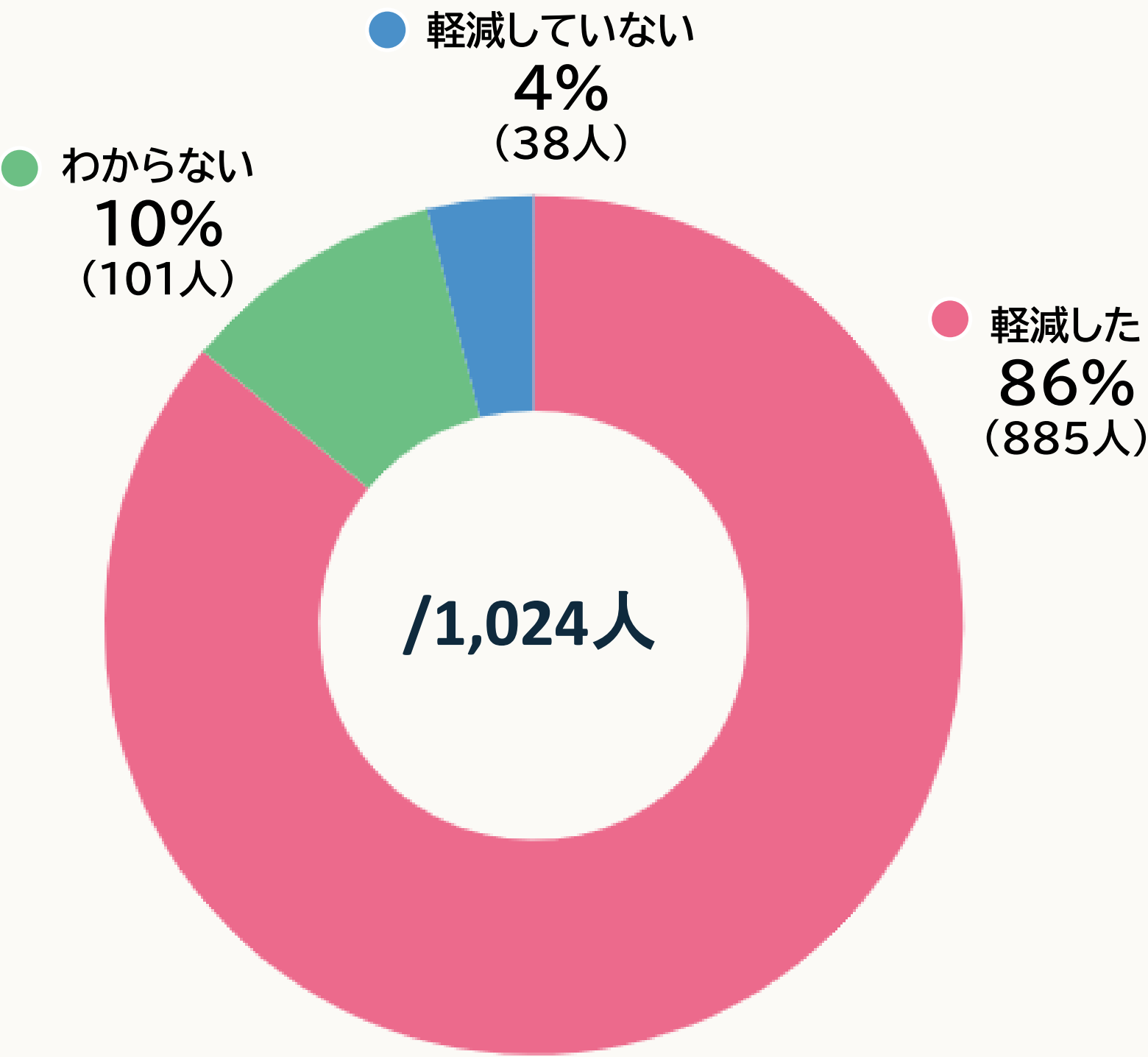
・ 無償化制度を家庭内で共有し、食育や感謝の学びへつなげるきっかけとなっている。

・ 「伝えていない」26%に向け、家庭で話題にできる資料等の提供が必要。

- 伝えている
- 伝えていない
- これから伝えたい
- 伝えるつもりはない

■ 経済的負担の軽減実感

問5. 給食費が無償化されたことで、子育てにかかる経済的な負担は軽減しましたか。



・ 86%が「負担が軽減した」と実感。

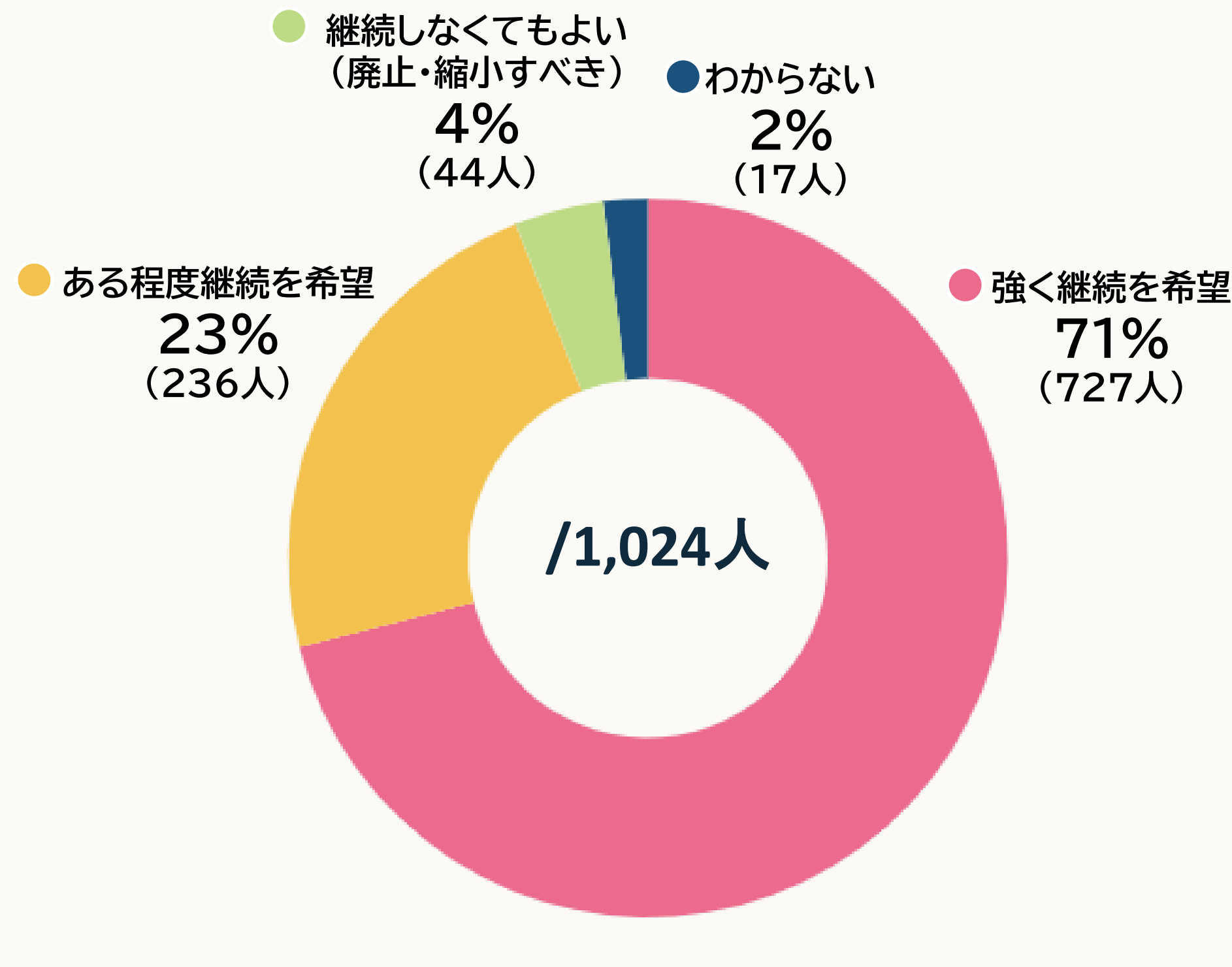
・ お米をはじめとする様々な物価の値上がりが、各家庭に大きく影響している。

・ 物価高騰における負担軽減策として、非常に大きな効果が得られている。

● 軽減した ● わからない ● 軽減していない

■ 学校給食費無償化の継続に関する賛否

問6. 今後も無償化の制度を継続すべきだと思いますか。



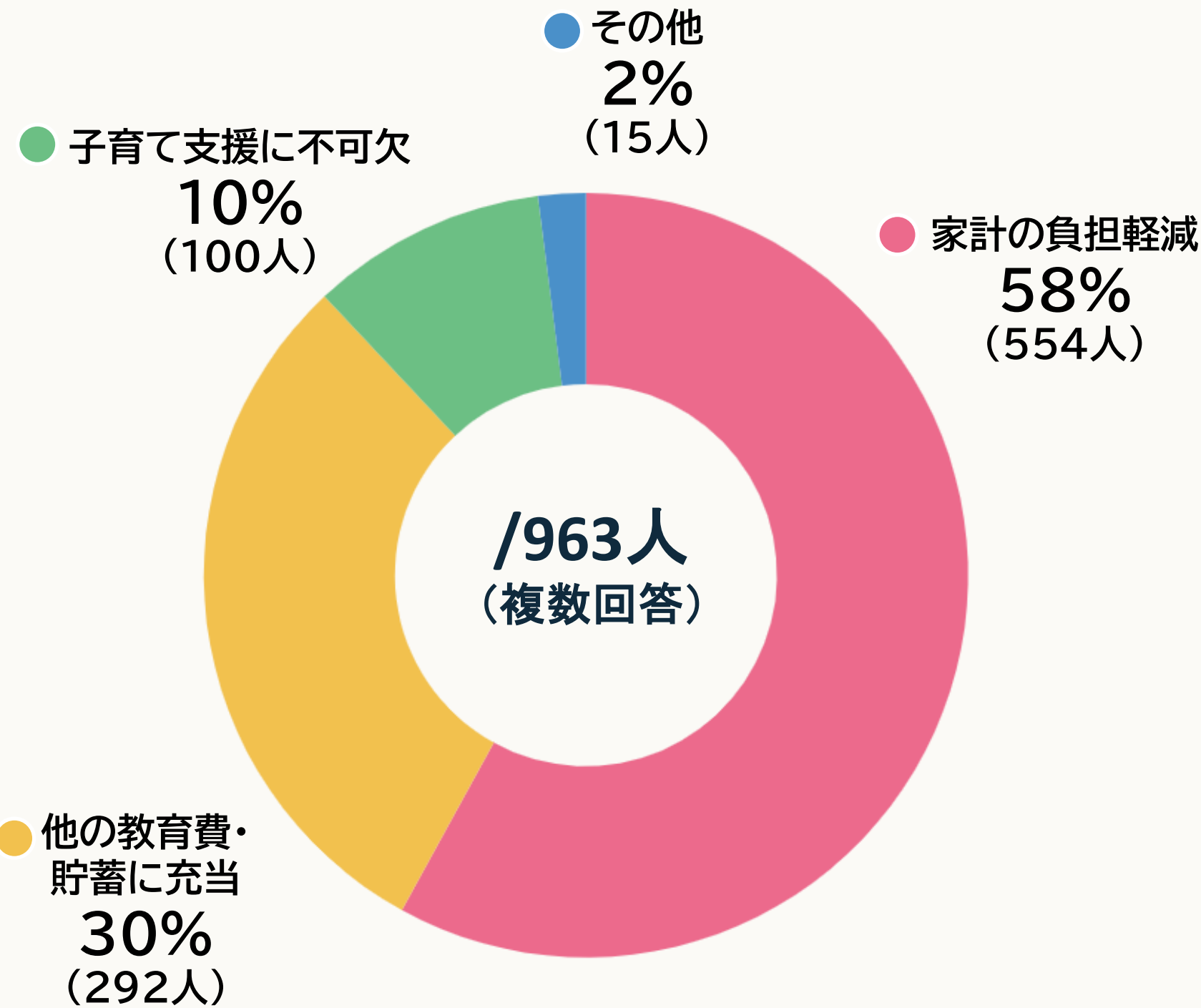
・「強く希望」+「ある程度希望」を
合わせて約94%が継続を希望。

・ 市民から強い支持を得ている施策であることが明確。

- 強く継続を希望する
- ある程度継続を希望する
- 継続しなくてもよい (廃止・縮小すべき)
- わからない

■ 継続を希望する理由

問7. 問6で「継続」を選択された方にお聞きします。その理由は何ですか。(複数回答可)



- 「家計の負担軽減」が最多で**58%**
- 30%が「他の教育費・貯蓄に充当」と回答。
- 経済的効果が支持の中核だが、10%は子育て支援としての必要性も評価。

- 家計の負担軽減が大幅に軽減されているため
- 給食費に充てていた費用を、子どもの他の教育費や貯蓄に回せるため
- 子育て支援として必要不可欠だと思うため
- その他

<問7. その他の自由記述> 回答数:15人

給食費無償化の継続を希望する理由(要点まとめ)

1. 経済的負担の軽減・子育て支援

- **家計の助け:** 教育費が高騰する中での直接的な負担軽減や、他費用の補填として非常に有難い。
- **定住促進・他地域との比較:** 子育て世代の呼び込みや、他自治体に対抗する施策として継続すべき。

2. 給食の質や財政負担をめぐる現実的な意見

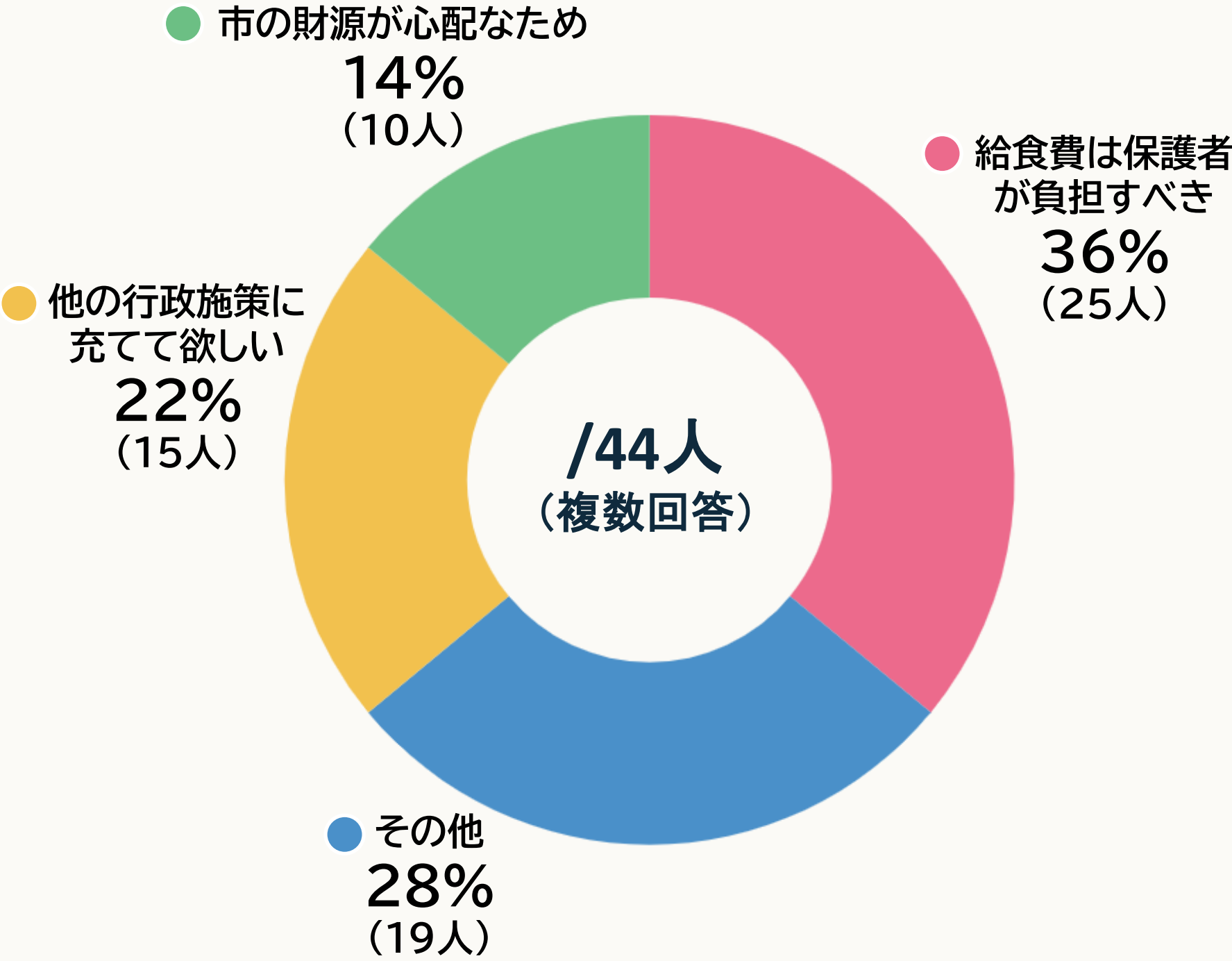
- **質の維持が最優先:** 財政圧迫や食材費削減で給食の質や量が下がるなら、一部・全額負担や半額化も許容する。
- **未払い・不公平感の解消:** 給食費未払いに伴う不公平感や、徴収にかかる教職員の負担・トラブルを防げる。

3. 地域社会・学校現場への配慮

- **地域社会での見守り:** 地域全体で子どもを育てる意識や、栄養面から子どもの命・健康を支える基盤になる。
- **個別事情と現場のメリット:** 食物アレルギー等の個別配慮や、徴収業務の削減による教職員の負担軽減につながる。

■ 見直し・反対の理由

問8. 問6で「継続しなくてもよい」を選択された方にお聞きします。
その理由は何ですか。(複数回答可)



- ・「給食費は保護者が負担すべき」という受益者負担の考え方を重視する意見が36%
- ・ 限られた財源の優先順位を問う声や、施策の持続可能・将来世代への影響を懸念する声。

- 給食費は保護者が負担すべきだと思うため
- 無償化よりも他の行政サービスや施策にお金を使ってほしいため
- 市の財源が心配なため
- その他

＜問8. その他の自由記述＞ 回答数:19人

給食費無償化の継続に対する懸念等の意見(要点まとめ)

1. 給食の「質と量」に対する不満・不安

- ・ **質や量の低下への懸念**: 無償化の影響で、おかずが少ない、量が足りない、メニューが質素になったという声。
- ・ **自己負担による充実を希望**: 「多少のお金を払っても、おいしく栄養のある満足な給食を食べさせたい」という意見。

2. 税金・財源の使い方と他事業への優先順位

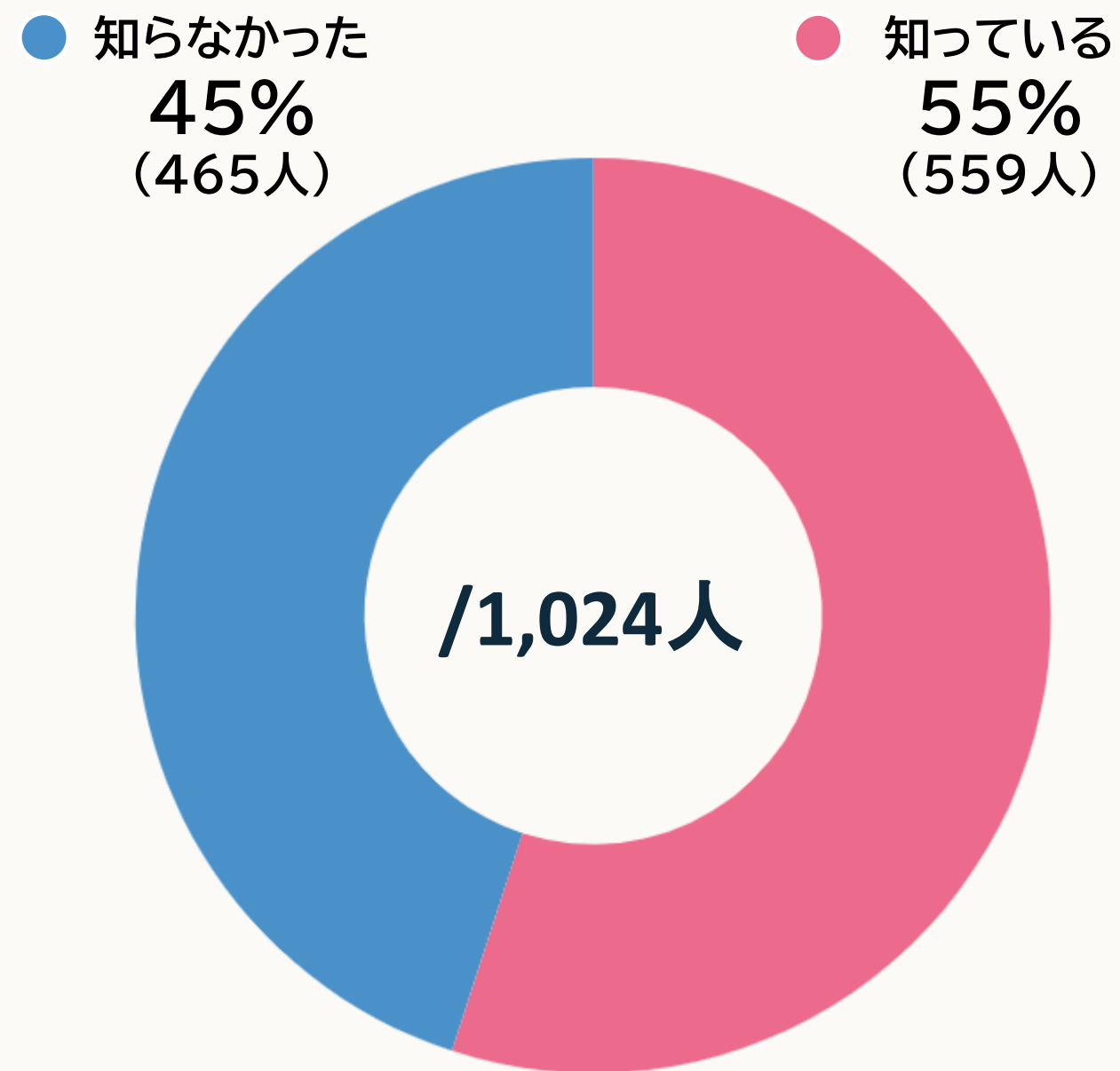
- ・ **他施策や学校設備への予算配分**: 給食無償化より、トイレ・プール・窓ガラス等の学校修繕や、道路環境・デマンドタクシーなどの福祉施策に財源を回してほしい。
- ・ **制度のあり方への疑問**: 子どものいない世帯への配慮や、税金化(受益者負担)すべき、一律無償ではなく低所得世帯等への限定や一部負担にすべき。

3. 保護者の「関心や当事者意識」、「意見」の希薄化

- ・ **行政への「声」が届きにくくなる懸念**: 無償になることで行政への関心が薄れ、保護者として意見や要望が言いづらくなるという懸念。

■ 地産地消の認知度

問9. 本市の学校給食における地産地消の取組の一つとして、地元産米「うまそだち」を使用していることを知っていますか。



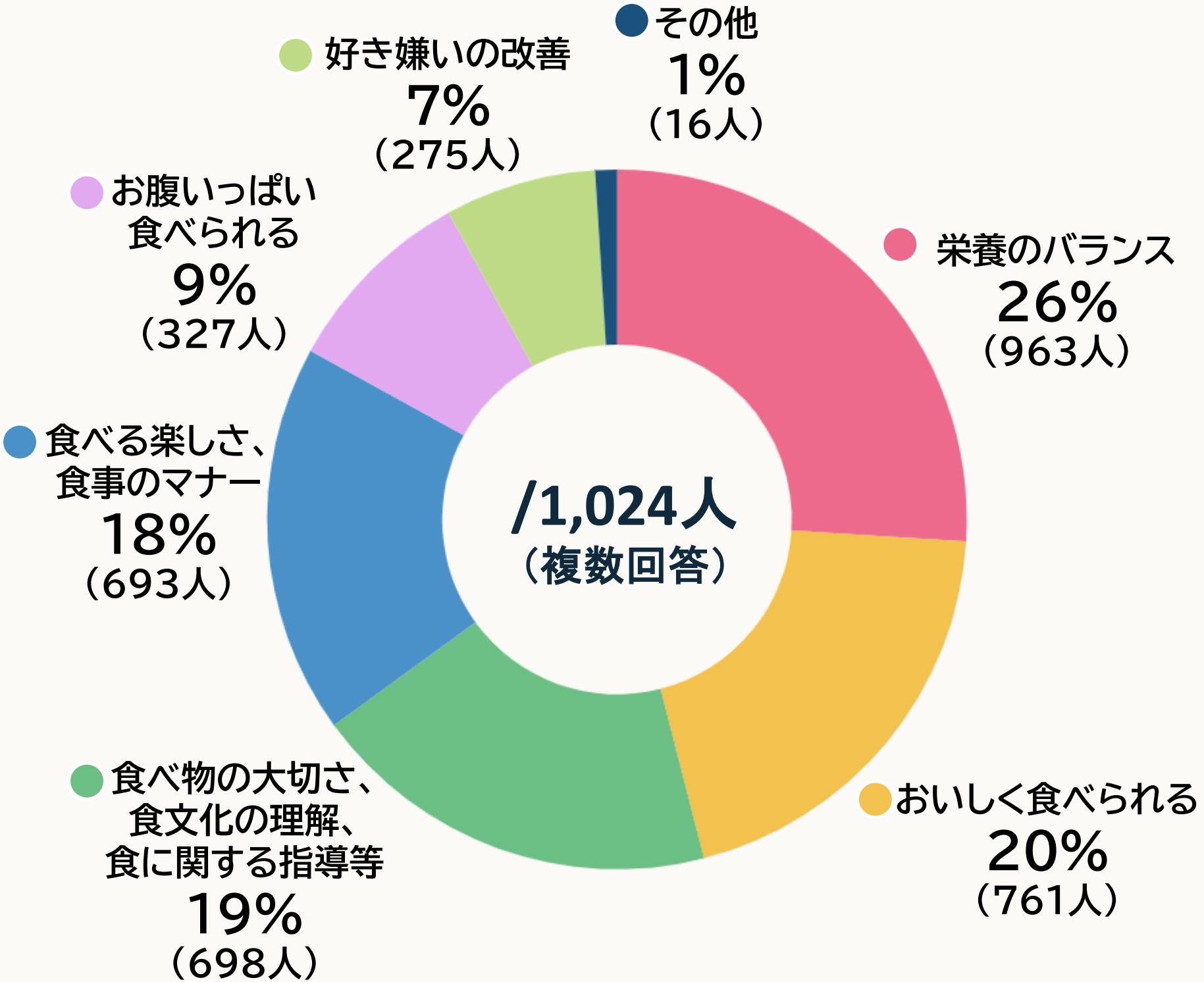
- ・ 認知度は**55%と約半数**であり、認知度向上に向けた情報発信の強化が課題。

● 知っている

● 知らなかった

■ 学校給食に求める重要性

問10. 学校給食において、重要だと思うことは何ですか。（複数回答可）



・ 栄養やおいしさに加え、教育的価値の両立が求められている。

- 栄養のバランスが取れていること
- 子どもがおいしく食べられること
- 食べ物の大切さや地域の食文化を理解するなど、食に関する指導が行われること
- みんなで食べる楽しさや、食事のマナーなどを身につけること
- 子どもがお腹いっぱい食べられること
- 好き嫌いが改善されること
- その他

<問10. その他の自由記述> 回答数:16人

学校給食に期待する役割・内容に関する意見(要点まとめ)

1. 食育と献立の多様性(豊かな食経験)

- **食の幅の広がり:** 家庭では出せないメニューや郷土料理、普段食べない食材に触れることで、食の好みや知識が広がる。
- **教育としての価値:** 食の大切さや、作ってくれる人への感謝、食べる楽しさを学ぶ機会にする。

2. 安心・安全な食環境と栄養・量の確保

- **安全と健康の維持:** 安心できる食材・調味料の使用や、衛生管理、アレルギーへの徹底した配慮を求める。
- **充実した食事環境:** 成長に必要な栄養や量をしっかりと摂れる、温かいものを食べられる、よく噛んで食べる指導など。

3. 保護者の負担軽減と福祉的な意義

- **家庭の昼食準備の軽減:** 特に長期休み中など、親が昼ご飯を作る負担が減ることに強い感謝がある。
- **すべての児童への食事保障:** 貧困家庭の子どもたちも含め、子どもたちがお腹いっぱい食べられる環境を守る。

自由記述の要点まとめ — 保護者の声①

回答数:327人

1. 無償化への深い感謝と、家計・子育てを支える大きなメリット

▪ 経済的な負担軽減と安心感:

「3人分の給食費は本当に大きく、無償化のおかげで家計が助かっている」、「物価高騰が続く中、この制度があることで四国中央市で子育てをしていて良かったと心から感じる」という切実な声が多数。

▪ 学校給食の質の高さと食育への評価:

「地産地消や季節の行事食、栄養バランスが考えられており、家庭では出せないメニューを食べて食の幅が広がっている」、「子供が今日の給食美味しかった！と毎日楽しみに学校に通っている」と、献立や調理に関わる栄養士・調理員への感謝の声。

自由記述の要点まとめ — 保護者の声②

回答数:327人

2. 給食の「質と量」の維持を最優先する意見、教育環境全般に対する意見

・「無償より質と量」を求める声:

「無償化はありがたいが、予算の限界からおかずが少ない、量が足りない(特に育ち盛りの男子や中学生)と感じる」、「無償化＝給食が質素になるくらいなら、一部または全額を負担してもいいので、しっかりした量と栄養のある給食を食べさせてほしい」という意見が多い。

・給食費の未払い問題とモラルへの懸念:

「本来は自分の子どもの給食費は払うのが当たり前」、「給食費を払わない人との不公平感がなくなるのは良いが、市の財政を圧迫してまで無償化にこだわる必要はない」という冷静な指摘。

・他施策や教育環境全体への目配り:

「給食無償化もありがたいが、学校のトイレやプールの修繕、高校生への支援、公園や室内遊具の充実、他の福祉施策など、市全体の財政配分やバランスも考えてほしい」という広い視野からの意見。

学校給食費無償化事業および地産地消の推進に関する 現状と課題

1. 現状と成果

本市においては、独自の学校給食費負担軽減事業により、市内小中学校の学校給食費が無償となっており、子育て世帯の経済的負担の軽減に大きく寄与している。また、食育の推進および地域農業の進行を目的とした地産地消の取組みの一環として、学校給食への「地元産米」の活用を推進してきた。



2. 今後の課題

①給食の質に関する正確な情報発信と保護者の安心感の醸成

事業継続に向けて実施したアンケート調査において、給食の無償化に伴い「将来的に給食の質が低下するのではないか」という保護者の不安や懸念の声が一部で見受けられた。

学校給食法等に基づく栄養価の基準や食材の安全・品質管理は、無償化の有無にかかわらずこれまで通り厳格に維持される仕組みとなっている。しかし、その仕組みや財政措置の実態が保護者へ十分に伝わっていないことが課題である。

今後は、「無償化によって質が落ちることはない」という実態を分かりやすく丁寧に周知し、保護者が抱く懸念の払拭と、信頼関係の構築に努める必要がある。

②地元産米の活用をはじめとする地産地消の取組の周知



学校給食における地元産米の活用など、地域の食や農業に触れる貴重な機会を提供しているにもかかわらず、その取組みや価値が保護者や地域住民に十分に周知されていない現状がある。

今後は、給食を通じて育まれる豊かな食育や地域への愛着、生産者の顔が見える安全・安心な食材選びの工夫などについて積極的な情報発信を行い、地産地消の取組に対する理解と認知度を向上させることが重要な課題である。